

第 28 卷 PDF 読本



水郡線（安積永盛～水戸）

烏山線（烏山～宝積寺）

日光線（日光～宇都宮）

2024年9月30日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章	水郡線（安積永盛～野木沢）	・ ・ ・ ・ 5
第2章	水郡線（野木沢～常陸太子）	・ ・ ・ ・ ・ 15
第3章	水郡線（常陸太子～水戸）	・ ・ ・ ・ ・ 32
第4章	水郡線（常陸太田～上菅谷）	・ ・ ・ ・ ・ 53
第5章	烏山線（烏山～宝積寺）	・ ・ ・ ・ ・ 72
第6章	日光線（日光～鹿沼）	・ ・ ・ ・ ・ 78
第7章	日光線（鹿沼～宇都宮）	・ ・ ・ ・ ・ 84

水郡線（安積永盛～水戸）：142.4 km

水郡線（常陸太田～上菅谷）：10.5 km

烏山線（烏山～宝積寺）：20.4 km

日光線（日光～宇都宮）：40.5

総営業キロ 213.8 k m

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 23 弾目として、東北本線や常磐線に接続する、栃木県・福島県・茨城県を走る、水郡線・烏山線・日光線の旅（総営業キロ 213.8 km）について執筆させて頂きました。

本作品はカッシー館にある榎原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 37 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

（2015 年 9 月～2024 年 8 月で踏破）

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「樫原勉文庫拡充」にて、次の PDF 読本からダイジェスト版でもご覧頂けます。

第 10 編（日本横断歩き鉄の旅）

水郡線・烏山線・日光線



1万キロ達成
水郡線野上原駅にて
20181020（土）

2021年2月1日 樫原 勉

第1章 水郡線（安積永盛～野木沢）

平成30年9月15日（土）からの3連休、当初想定した天気が好天となり、実りの秋にふさわしい歩きが実現できる。満足また満足。すなわち、3日間で営業キロ92kmも歩ける。これで通算9,916km（活動日数488日）となり、当面の目標である1万キロまで84kmと迫った。また、野木沢から安積永盛（あさかながもり）までの水郡線（27.4km：8駅）と会津若松から郡山までの磐越西線（64.6km：16駅）にある全ての駅舎に立ち寄りにも成功した。両線とも幹線道路に沿ってない駅舎が多々あり、複雑な道筋を鋸型で歩くことが余儀なくされた。また、道筋がはっきりしないところも多々あり戸惑ったが、天や神のご加護に加え、鉄道路線を重点においたレールウェイマップル持参のため、更には今回も地元の人々の懇切丁寧な応援のお蔭で当初の目標が達成できた。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



第1節 旅プラン

今回のプランとは次の通り。

○9月15日（土） 雨のち晴れ

やまびこ125号 大宮7時58分 → 郡山8時55分

郡山 9 時 18 分 → 野木沢 9 時 57 分

野木沢～川辺沖～泉郷～川東～小塩江（おしおえ）～谷田川～磐城守山～安積永盛
（27.4 km）

安積永盛 19 時 17 分 → 郡山 19 時 25 分



ホテルロイヤル郡泊（04-932-3232）

○9 月 16 日（日） 晴れ

郡山 5 時 55 分 → 会津若松 7 時 9 分

会津若松～広田～東長原～磐梯町～翁島～猪苗代～川桁（31.2 km）

川桁 16 時 54 分 → 郡山 17 時 34 分

ホテルロイヤル郡山泊

○9 月 17 日（月） 晴れ

郡山 8 時 29 分 → 川桁 9 時 5 分

川桁～関都～猪苗代湖畔～上戸～中山宿～磐梯熱海～安子ヶ島～喜久田～郡山富田
～郡山（33.4 km）

やまびこ 156 号 郡山 19 時 30 分 → 大宮 20 時 22 分

第2節 1日目：9月15日（土）：野木沢～安積永盛 雨

平成30年9月15日（土）から始まる3連休の初日は、水郡線の野水沢から郡山までの営業キロ27.4kmに挑戦する。水郡線とは水戸から郡山までの142.4kmで茨城県と福島県に跨る鉄道。他に枝線あり。1週間位までは北陸本線の福井から敦賀などを考えていたが、週間天気予報では3日とも雨マークであったので、急遽磐越西線などの歩きの旅に切り替える。宿も会津若松の東横インにとり、磐越西線1本に絞って歩こうと思ったが、生憎満室でNGとなった。色々推敲に推敲を重ねて思いついたのが、今回のプラン（磐越西線+水郡線）である。ダイヤの関係で第1日目は水郡線となった。



新宿駅



大宮駅

水郡線のスタートは当初は野木沢駅から営業キロ5.2km先にある磐城石川駅を想定していたが、足下も悪い上、10時スタートでは終点の安積永盛駅にはとても明るい内には到着できないと判断し、野木沢からのスタートとする。終点が郡山ではなく安積永盛となったのは、安積永盛から郡山までは東北本線の範疇となり、既に平成21年8月踏破完了していたからだ。結果的に野木沢からのスタートにして大成功。



今回の旅の切符



やまびこ新幹線特急券と乗車券

本日の水郡線は、非電化の単線であった。加えて、郡山から常陸大子までは2時間に1本程度のダイヤで相当の制約がある中での歩きを余儀なくされた。それ故、路線の進行方向を掌握するのに相当の神経を費やすこととなった。道路地図を持参しなかったため、終日手探り状態での歩きとなった。これまでの18年間の歩きを通じて培った第六感を信じて必至に歩いて、目標を達成できる。



水郡線

本日の難所は、泉郷駅から川東までの山越えだろうか。線路が全く見えない区間であったので、暗中模索で必至に歩いた。道を聞きたくても地元の人に会わず。不安また不安の連続であった。しかし、要所の3カ所で運よく地元の人に会い迷うことなく歩くことができる。もう一つは、川東から小塩江（おしおれ）も方向性を誤って歩こうとしたが、地元の人のお蔭で無事クリアできる。今日も地元の人のお世話になり、18時51分安積永盛に到着できる。

郡山駅から「ホテルロイヤル郡山」に向かう際、“みちのく阿波踊り”祭りに対面できラッキーであった。夕食は銘席喰処”夢一膳”で福島県の地酒（天明、会津中将など）を堪能しながら本日の疲れを癒す。



野木沢駅

雨の中のスタート

この区間のメモによる旅記録は以下の通りである。

野木沢（10時10分）～川辺沖（10時55分）～泉郷（11時37分）

～川東（13時53分）～小塩江（おしおえ:15時28分）

～谷田川（16時26分）～磐城守山（17時17分）～安積永盛（18時51分）

水郡線に乗るまでは、磐城石川駅にするのか野木沢駅にするのか迷った。安全を考えて野木沢駅からのスタートとする。結果的には大成功。安積永盛駅を除きすべての駅でパスモが使用できず。安積永盛駅から野木沢駅まで運賃500円を要す。野木沢駅には9時57分到着。小雨模様であった。駅前を種々のアングルでデジカメに収め、川辺沖に向かってスタートする。水郡線は単線の非電化、しかもダイヤの本数が少ないため、列車との対面が少ない。それ故、“鉄道案内人”としての線路の方向性を見極めるのが難しい。10時17分、国道118号線に出て左手に線路を確認する。10時18分、野木沢北口バス停前を通過。10時19分、藤田城への案内板（150m先）がある。10時28分、石川町から玉川村となる。10時42分、道路標識で池下という地名を通過。10時45分、交差点で川辺沖駅の方向性をコンビニに立ち寄り確認する。運よく、交差点を真っ直ぐ歩いた先に川辺沖駅があると教えて頂く。雨で視界が悪かったのでこの助言は助かった。矢吹街道踏切手前の右側に川辺沖駅（10時55分）があった。



藤田城入口



川辺沖駅



泉郷駅



この駅には駅舎はなかった。再び国道 118 号線に戻り、次の泉郷駅を目指す。道なり歩いた先に、閉鎖したような泉郷駅（11 時 37 分）に到着する。11 時 57 分、中村バス停前を通過。12 時 12 分誤った方向に進む。第六感が作動にセブンイレブンに立ち寄り、川東駅への道筋を確認する。「この道を真っ直ぐ歩いても川東駅には繋がっておらず、遠回りを余儀なくされる」とのことであった。「800m 位引き返し、信号がある交差点を左折し、少し歩いた先を左折した方が分かりやすい」との助言を頂く。小走りで交差点に向かう。よく見ると、鉄道下（12 時 18 分）を潜っていた。12 時 23 分、福岡空港に繋がる交差点までリカバリー。20 分位ロスタイムとなる。12 時 31 分、疑心暗鬼で左折し、県道 141 号線（田村線）を歩く。山間の歩きのため線路は全く見えず。誰かに路を尋ねようと思っても人とは対面せず。それ故、以前暗中模索での歩きが続く。幸いなことにいつの間にか雨が上がり、見通しがよくなる。暫く歩くと民家が見えて来て、方向性としては間違っていないと自分に言い聞かせる。



誤って鉄道下潜る



疑心暗鬼で歩く



光沢山金藏寺

13 時 11 分、光沢山金藏寺前を通過。この境界で、運よくドライバーに道筋を聞く機会を得る。「この交差点を左折すると線路に近づきます。線路に沿って歩いた先に川東駅があります」との説明を受け安堵する。13 時 20 分、曇りマークから晴れとなる。13 時 22 分、左手に線路が見え安堵する。黄金色した田圃が辺り一面に広がっていた。線路に近づいても中々駅舎が見えてこないのが、行き過ぎたのはと心配になり、10 分位右往左往する。少し行った先の庭先で作業をしている方と対面し、川東駅への道筋を確認する。「この路を真っ直ぐ歩いた先にあります」とのことであった。13 時 47 分、道路下を潜る。線路に沿って歩く。13 時 53 分、やっとのことで川東駅に到着する。



特に線路が

川東駅

それにしても立ち寄りには難しい駅舎であった。14時12分、殿田バス停前を通過。14時18分、須賀川市大東公民館前を通過。14時33分、八幡神社前を通過。本格的な晴れとなる。14時41分、JR線下を潜る。少し行った先で路に迷いそうになるが、地元の人のお世話になり助けて頂く。15時3分、芭蕉の辻4前を通過。15時7分、右手にJR線を見つけ安堵する。15時9分、JR下を潜り鉄道の右側となる。15時28分、朝確認した通り幹線道路そばに小塩江（おしおえ）駅があった。それにしても、川東駅、小塩江駅は手間を要したものだ、地図が白黒コピーであったこともあり、農道や町道などは鮮明に醸し出されていない故。15時34分、県道141号線を歩く。15時34分、民家で吠える犬と対面。15時51分、雑草が茂り歩きにくい歩道を歩く。15時51分、須賀川市から郡山市となる。郡山市に入ると雑草による障害はなかった。



芭蕉の路

小塩江駅

16時6分、谷田川宮下バス停前で50m位通り過ぎた交差点に引き返す。この引き返しが大成功であった。須賀川に続く路筋を500m位歩く。その先に赤が印象的である

谷田川駅（16時26分）があった。この駅舎も途中、地元の方にお世話になり踏破できる。



谷田川の道路標識



谷田川駅

16時48分、黄金色した農道を線路に沿って歩く。行き止まりとなり、右折し県道（17時2分）に戻る。17時12分、守山問屋跡（奥の細道）を通過。ここでの地元の人のお世話になり、17時17分、磐城守山駅に到着する。線路向こう側は丘であった。再度消防署がある道筋まで出て、線路に沿って歩く。段々と日が暮れてくる。17時51分、第六感で県道110号線（田村安積線）に出ることができる。左手にはJR線があったが、いつの間にか右手側になっていた。暗くてどこで線路下を潜ったのか判明できない。でも今地図で確認すると錯覚かも。



消防書の先に磐城守山駅が

17時53分、犬のような木々と対面。17時59分、遠くに安積永盛駅界隈の明かりが見えて来る。途中犬を散歩させている方に安積永盛駅への道筋を確認する。「真っ直ぐ歩けば行ける」とのことであった。18時20分、阿武隈川を渡る。



田村安積線

犬のような木々

万歩計の誤操作により測定ができず。通過に2分程度要す。途中コンビニに立ち寄りアイスを購入したお蔭で、安積永盛駅への方向性を間違わなくてすむ。反対方向に進むところであった。18時51分、安積永盛駅に到着。次の郡山駅の電車は東北本線からの電車で19時17分発であった。郡山駅に到着するや否や駅前のみちのく阿波踊りで賑わっていた。商店街を通り、何人もの方に聞いてやっとホテルロイヤル郡山(903号室：最上階)に19時55分到着する。ホテルの紹介でホテル前の夢一膳に向き、晩酌セットをつまみにして福島の地酒(会津中條、三春)を頂く。本日の営業キロは27.4km、万歩計は50,799歩だった。本日も雨からのスタートとなったが、当初の予定をクリアし大満足に一日だった。感謝あるのみ。



安積永盛駅の灯り

阿武隈川



安積永盛駅



みちのく阿波踊り



夢一膳にて

二日目以降は、磐越西線のため記載割愛。